

地域環境住民と共存する養豚経営

新潟県胎内市

阿賀北ファーム

事例のポイント・要約

- EMボカシとEM（有用微生物）を主に活用して豚舎の環境改善
- 地域住民にEMを配布し環境問題に共に取り組む



EM活用の経緯

地元でEMを活用して河川浄化等の環境浄化に取り組んでいた町内会長や役場職員の薦めにより平成20年春より北陸EM普及協会の指導で臭気軽減に取り組んだ。

現在の活用方法

1) 飼料に添加するボカシの作成

EMボカシ材料に飼料を混ぜEMで発酵させ熟成してから飼料に添加している。

2) EM活性液の作成

EM5号を作成し豚舎の状態をみて週に2回から3回散布している。



EM活性液製造装置

現在までの効果

- 1) 年々、臭気の検査でポイントが下がってきた。
- 2) 地域住民からの苦情が減少した。
- 3) 肉の品質が向上してきたように思われる。
- 4) 堆肥の水分の蒸散が早く流れてこなくなった。
- 5) 堆肥を学校の近くの農地に散布しても臭気に関する苦情が無くなった。
- 6) EMボカシ作成や活性液作成や散布作業等が日常化して定着した。



大型攪拌機



保温庫内の熟成中ボカシ

今後の抱負

3年間取り組んできた結果、上記のような状況になり継続してきて良かったと感じている。

更に臭気の軽減と品質の向上に取り組むと共に地域住民と環境浄化活動に取り組んでいきたい。

